

# 北京市観光農業の発展現状と問題点<sup>①</sup>

— 北京市昌平区の事例を中心に —

張 紀濤・夏 占友・張 虹

## 要 旨

本稿は近年急速に発展を遂げている北京市の観光農業に焦点をしぼり、北京市の観光農業がなぜ発展し、そしてその発展が北京市の経済、農村社会にどのような影響を及ぼしているかを検討する同時に、中国が目指す「三農問題」（農村、農業、農民）の解決を図る上で、観光農業がどのような役割を果たしているかを解明することを目的とする。

キーワード：三農問題，観光農業，都市化，新農村の建設

## はじめに 問題の提起

本稿は近年急速に発展を遂げている北京市の観光農業に焦点をしぼり、北京市の観光農業がなぜ発展し、そしてその発展が北京市の経済、農村社会にどのような影響をもたらしているかを検討すると同時に、中国が目指す「三農問題」（農村、農業、農民）の解決を図る上で、観光農業がどのような役割を果たしているかを解明することを目的とする。

このテーマを取り上げる理由として、以下の3点が考えられる。

第一に、これまでに日本における中国農村問題の研究が主に中国の農業または農村と都市との経済格差の問題に重点をおいてきた。観光農業についての研究がほとんどなされていないのが現状である。しかし、後の分析で分かるように、観光農業は農業の発展に大きく寄与するだけでなく、農村と都市の経済格差を縮小する上で大きな役割を果たしている。特に近年、中国の北京、上海などの大都市を中心に観光農業が急速に発展し、その実態についての研究が必要となる。

第二に、日本と同様に中国の観光農業も都市化の進展によりもたらされた結果である。その意味において、観光農業は都市側のニーズに基づくという性格をもっている。他方、中国の農村地域は観光農業の発展を通じて、農村の地域経済を活性化することによって地域全体の発展を求めようとする強い意欲をもっている。都市と農村のニーズが一致することから、観光農業が発展す

る可能性が生れたのである。したがって、観光農業を研究し、中国が目指す「新農村の建設」と地域開発戦略を解明することが重要な意義をもつ。

第三に、都市化の発展に伴って都市住民の間では、「物の豊かさ」とともに、「心の豊かさ」を求め、自由時間の増大と充実した生活と文化を重視するようになってきた。観光農業の出現と発展は中国消費構造の変化を表わしている。こうした消費構造の変化を明らかにすることも重要である。

以上のような問題意識を持ち、以下の順序を踏んで北京市観光農業の現状と問題点を分析したい。

まず、第一節は本論文の理論的な枠組みを提示する。次に第二節は、第一節で提示した理論的枠組みに基づき、観光農業とは何か。その概念規定、特徴と機能などを明らかにする。第三節では、北京市観光農業の現状と問題点を解明する。本稿は北京昌平区を研究の対象地域とする。昌平区は北京の農業と観光の重点地域である。世界的に名が知られる十三陵が昌平区に位置する。ケーススタディとして昌平区を取り、昌平区の観光農業にどのような特徴と問題点がみられるかを検討する。最後に以上の検討を踏まえて北京市観光農業の発展方向を展望する。

## 第一節 観光農業の基本理論と本稿の枠組み

### 1. 本稿の理論的な枠組み

#### (1) コーリ、クラークの法則と観光農業

観光農業がなぜ発展するのか、その発展要因を説く理論や仮説が学者によって異なっている。ここではまずコーリ、クラークの法則をもって、経済の発展に伴う産業構造の変化要因をみる。コーリ、クラークの法則によれば、経済発展につれて、産業の構成が第一次産業から第二次産業、さらに第三次産業へとその重点を移動していくことになる<sup>(2)</sup>。産業構造が高度化するにしたがい、労働力も第一次産業から第二次産業、さらに第三次産業へ移動する。労働力の移動をもたらした主因が産業間の所得格差によるものであり、産業構造の変化は必然的に雇用構造の変化を来すのである。

コーリ、クラークの法則は、イギリス産業構造の変化要因を説明することができるだけでなく、中国における産業構造の変化を同様に説明することもできる。

なぜなら、中国における農村経済のサービス化が中国の経済発展に伴い、進展するからである。観光農業は農業経済のサービス化が生み出した結果であり、観光農業の発展は例えば、加工農業の発展をもたらすことになる。つまり、農民の所得向上が単に土地集約型種植業と養殖業の発展に頼るだけではまだ不十分である。農産品加工工業の発展と農産品を原料とする工業製品の発展

は、農業の産業構造を高度化し、農産品の付加価値を高めることができる。そして、土地集約型農産品の減少に伴い、農業労働力が土地集約型農業から遊離し、過剰労働力が生まれるが、農業経済のサービス化はこうした過剰労働力を吸収することができる。また、農村の過剰労働力が農業分野から観光農業分野へ移動することになる。このように農村経済のサービス化及びこれに伴う観光農業の出現と発展は中国の農村産業構造の変化をもたらし、過剰労働力の雇用創出に寄与することができると思う。

## (2) 比較優位説と観光農業

「比較生産学説」はまたは「比較優位説」ともいう。リカード (D. Ricardo) によって提唱された貿易及び国際分業に関する基礎理論として知られる。2 国間の相互比較において、それぞれ異なる国が相対的に低い生産費で生産しうる財、すなわち比較優位にある財に特化し、その他の財の生産を相手国にまかせるという形で、国際分業を行い、貿易を通じて特化した財を相互に交換すれば、貿易当事国は双方とも貿易を行わなかった場合よりも、利益をうることができるという。比較優位説はこれまでに国際貿易と国際分業がなぜ行われるかを説明するための基礎理論ではあるが、今では、比較優位説を生産要素の合理的な配分にも応用し、それぞれ異なる生産要素の比較に存在する効率の違いを説明することができる。

この理論を地域の経済発展と観光農業の分析に応用すれば、以下のような特徴がみられる。まず、第一に、観光農業の発展を図る上で、土地集約型農業製品の生産をできるだけ減らし、産業構造を改善し、農村経済のサービス化を求めるべきである。北京を取り巻く郊外の農村地域を例にみれば、農村地域の 60%以上の土地が山間部に位置しているため、北京市は土地資源の優位性をもたない。他方、北京市の都市部が工場建設や住宅建設などで、たえず拡大しているため、農村地域の耕地面積が年々減少している。

土地資源の優位性がないのに対して、北京市は相対的に資本の優位性をもっている。北京市は中央官庁の所在地であり、市民の所得収入が高く、比較的豊富な資金力をもっているからである。第二に、したがって北京市の農村地域は土地集約型農業より、資本集約型農業の発展に適している。観光農業が資本集約型農業の特徴をもっているので、北京市は技術集約型農業、観光農業が発展する潜在力に恵まれている。

第三に、北京市の農村地域は土地が少なく、人口が多いという特徴がみられる。したがって北京市は相対的に農村労働力資源の優位性をもっている。このことは北京市が労働集約型農産品、例えば、野菜、果物、花などを生産するための有利な条件を備えていることを意味する。同時にサービス業の発展に必要な労働力資源に恵まれている。

このように、他の地域より北京市は観光農業の比較優位をもち、その発展の可能性に恵まれて

いるといえよう。

### (3) 都市、農村の一体化仮説と観光農業

エンゲルス氏は社会発展の方向性を分析した上で、「都市と農村との融合」という仮説を提出したことがある。つまり、エンゲルス氏は都市と農村の対立がなくなることが可能だとし、この対立をなくすことは工業発展のためであり、都市と農村が融合し、工業が発展してはじめて、都市と農村がいずれもよりよい発展の環境を獲得することができるかと指摘した。

2008年に北京オリンピックが開催されてから、中国政府は農民所得の倍増を目標に農業、農村政策に本腰を入れはじめ、「新農村建設」の方針を打ち出した。

新農村の建設は都市と農村の一体化を理論的な基礎とする。新農村の建設において観光農業の発展が重要視されている。このように観光農業の発展は従来の都市と農村の対立を緩和し、都市と農村の分業を基礎としている。都市と農村の融合は農村地域生態環境の改善に役立つ。他方、都市人口の居住地が農村地域へ拡大することも、都市への人口集中により生じた人口流入の圧力を軽減し、都市地域の生態環境の改善にも役立つことである。

## 第二節 観光農業の概念規定、特徴と機能

### 1. 観光農業に関する一般的な概念規定

以上、われわれは観光農業に関する一般理論を検討した。以下では観光農業の概念規定及びその特徴について考える。

観光農業については、学者によって様々な定義規定がなされている。また、観光農業に対する理解が異なっているため、観光農業には様々な呼称がある。例えば、中国の研究者によれば、観光農業には「観光農業」「休閒農業」「都市農業」「体験農業」「旅行農業」「観賞農業」「生態農業」「田園農業」「農村旅行」など10以上の呼称があるとしている（張燕芳，1999年）<sup>(3)</sup>。

Inskeep氏（1991年）は『観光企画——持続可能な方法論』と題する著書の中で、「アグリ・ツーリズム（Agri-tourism）」、「ルーラル・ツーリズム（Rural-tourism）」、「農村ツーリズム」などそれぞれ異なる呼称を区別せずに使用した<sup>(4)</sup>。Lane（1994年）は「観光農業」と「農業観光」、「アグリ・ツーリズム」との関係进行分析し、農業観光とアグリ・ツーリズムは観光農業を構成する形態と分析している<sup>(5)</sup>。日本では、観光農業を「グリーン・ツーリズム」と呼んでいるが、グリーン・ツーリズム（Green tourism）とは、緑豊かな自然、美しい景観の中での休養、自然観察、地域の伝統的、個性的な文化との出会い、さらに農村生活体験、農村の人々との触れ合いを求めることであると定義する<sup>(6)</sup>。この定義から分かるように、グリーン・ツーリズムは前述の

諸用語呼称に含まれる意味を表わし、中国で言う観光農業と同義の概念だと考える。EUとOECDも、観光農業を「農村の観光活動」として定義する(Reichel, A. 2000)<sup>(7)</sup>。本論文も前述の学者たちが使用した用語呼称を観光農業のもつ役割を表わす用語だと考える。但し、中国の「観光農業」には日本の「観光農業」の用語に含まれない内容、例えば、教育の機能や農業技術開発促進などの内容が含まれている。このことについて、以下では観光農業に関する中国の概念規定をみよう。

## 2. 観光農業に関する中国の概念規定

中国国内で最初に観光農業の定義と概念規定を出したのは盧雲亭、劉軍萍編集の『観光農業』と題する著書である。同書の中で、「観光農業とは人々の精神的、物質的なニーズを満たし、観光客に対して観光、グルメ、娯楽、労働、農産品の購入などのサービスを提供する農業だ」と定義する。つまり「観光農業は、旅行者を引きつけ、種々様々な喜びを与えると同時に、観賞、参加、学習、科学実験、健康促進、見聞などの観光の機能を持つ農業が観光農業の範疇に含まれる」としている(盧雲亭, 1995)<sup>(8)</sup>。観光農業の概念規定を以下のように四つの代表的な定義に要約することができる。

### (1) 観光産業の範疇に含まれる観光農業

第一は観光農業が観光産業の範疇に含まれるものという定義である。Iakovidou氏とTurner氏(1994)は「観光農業は都市部以外の地域で行われる各種ツアーを含む観光業である」と定義している<sup>(9)</sup>。

舒伯陽(1997)は、「観光農業は既存の農業資源を十分に利用した基礎の上で、観光をテーマとする企画、設計と施工を通じて、農業体験、農業技術の習得、農産品の加工と旅行者の参加とを一体化し、旅行者に近代農業の技術を学び、大自然のすばらしさを味わい、心の豊かさを追求するために行われる新しいタイプのツアーである」と定義を与えた<sup>(10)</sup>。凌躍初(2003)は「観光農業が高いレベルの文化と生態観光に属するもの」<sup>(11)</sup>とし、劉華楠(1998)は「観光農業は農業と観光業とを結びつけ、生産と消費とを有機に結合し、農業の生産地域を観光地域、レクリエーション活動、憩いや休養などを行う地域に変えている」としている<sup>(12)</sup>。潘小珍(1999)<sup>(13)</sup>、閻峰(1999)<sup>(14)</sup>、劉軍萍(2001)<sup>(15)</sup>なども観光農業が観光産業の中に含まれるとの見方をしている。

### (2) 農業芸術としての観光農業

第二は、観光農業を人工的な設計と施工により生まれた農業芸術だというものである。劉小龍(2001)は、「観光農業は既存の農業資源を利用し、企画、設計と施工など通じて、農業の建設、

科学的管理，商品生産，芸術加工と旅行者の参加実践などを融合することによって，旅行者がその他の名勝古跡で観賞できない大自然の恵みを獲得し，他の所で体験できない喜びを得ることができる新しい農業芸術である」と定義している<sup>(16)</sup>。

観光農業は伝統的な農業と異なり，農業と観光業に跨がり，相互の優位性を生かす新興産業だ」とする見方である（戸雲亭，1995）。郭煥成（2004）は，農業と観光業とを結合した新興産業であり，産業の交差性をもつ。農業の中に観光業が生まれ，第一次産業が第三次産業へ拡張，滲透することによって生まれる新しい農業の経営形態である。同時に観光農業は観光業の一部であり，観光サービスを提供するものである<sup>(17)</sup>。張燕芳（1999）<sup>(18)</sup>，張青年（1999）<sup>(19)</sup>，趙淑玲（2002）<sup>(20)</sup>などは同様な考えを持っている。

### (3) 農業として観光農業

第四は，「観光農業が農業に含まれ，農業の一部をなすものだ」という定義である。範子文（1998）は，「観光農業は農業と観光業を結びつける特殊な農業形態である」と考える。範子文（1998）は「観光農業は農業と観光業を結びつけて，自然の観察，農作物の体験または農村の自然環境を利用し，旅行者を引き寄せ，観察，学習，体験，健康促進，余暇活動を行うために生れる新しい農業生産形態である」と定義する<sup>(21)</sup>。つまり観光農業は農業と観光を結合し，農産品の販売，加工，農村生活体験の提供などを融合した新しい農業である。

楊楊（2005）は観光農業の内容，活動と資金投入などを分析した結果，中国の観光農業はまだ新しい産業を形成していないとの結論を出し，観光農業は近代農業の発展方向を表わすものの，まだ農業の範疇に留まっていることを指摘した<sup>(22)</sup>。

### (4) 日本における観光農業の定義

日本は基本的に前述の第一の定義をとり，観光農業を観光産業の範疇に含めるものとしている。そのため，日本では「観光農業」という用語より，「グリーンツーリズム」という用語がよく使われている。農林水産省は農山村地域の活性化を図るための重要な手段として，1992（平成4）年から提唱し，1995（平成7）年に通称「グリーンツーリズム法」（『農山漁村滞在型余暇活動促進法』）が施行された。制度的な整備として，農林漁業の体験と組み合わせて宿泊サービスを提供する体験民宿の登録制度が発足し，農家民宿を中心に組織化が図られている。地域の資源を活用するソフト・ツーリズムの一つといえる<sup>(23)</sup>。

また「グリーン・ツーリズム法」では，第一章総則第2条は「この法律において農村滞在型余暇活動とは，主として都市の住民が余暇を利用して，農村に滞在しつつ，農作物の体験その他農業に対する理解を深めるための活動をいう」と定義されている<sup>(24)</sup>。宮崎猛氏は『グリーン・ツー

リズムのおすすめ』と題する著書の中で、「グリーン・ツーリズムとは、都市住民が豊かな自然や美しい景観を求めて、農山漁村を訪ね、交流や体験を通じて楽しむ余暇活動であり、農山漁村ツーリズムである」と定義している（農林統計協会、1997年）<sup>(25)</sup>。

以上の概念規定を整理し、本稿は「観光農業を農業活動と農業資源を基礎とし、農業の生産経営を特色とする、農山漁村の自然景観を利用し、農作物の体験、農業科学知識の普及、教育と旅行者の参与などを一体化し、農業と観光業とを結びつける新しい産業である」と定義する。この新しい産業は従来の農業と異なり、単に農産物を提供するだけでなく、その生産過程と生産技術を観光商品として提供する。観光業の諸要素を農業にとり組み、農業のサービス化によって生まれた新しい産業である。

### 3. 観光農業の機能

以上の理論的な枠組みと概念規定に基づき、以下では観光農業がもつ機能とその役割を分析する。なお、本稿では観光農業がもつ役割を観光農業の機能と同じ概念で使用することをお断りしておきたい。観光農業は旅行者が農山漁村を訪ね、豊かな自然と美しい景観を觀賞する観光機能、農村に滞在する生活機能など基本的な機能をもつ他に、都市住民と農村住民との触れ合いを通じて、農民、農村、農業に対する都市住民の理解が深まるという社会的機能などを持っている。本稿は主に観光農業のもつ社会的機能と経済的機能に焦点を絞り、中国における「三農問題」の解決において観光農業が果たすその役割を分析する。

前述のように観光農業は農業と観光業が重なる産業であり、2つの基本的な機能、つまり、生産の機能と観光の機能を持っている。この2つの機能を図1のように描くことができ、観光農業がもつ機能を社会機能、経済機能、生態機能と教育機能に細分類することができる。

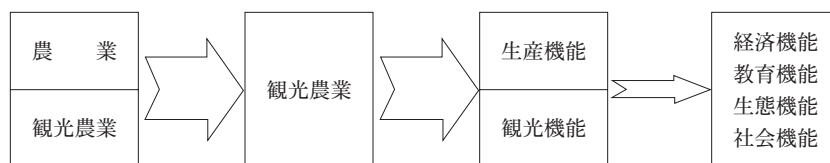


図1 観光農業の機能分類

出所：筆者作成。

#### (1) 社会的機能

まず、観光農業がもつ社会的機能をみよう。観光農業は中国における農業経済の発展を図るために新しい道を提供した。つまり、観光農業は都市住民に自然での余暇活動、農作物体験、農家

での宿泊などのサービスを提供すると同時に、都市住民と農民との交流を促進し、「三農問題」に対する都市住民の理解を深めることができるという社会的機能をもっている。2002年11月に開かれた中共第十六回大会は、「都市と農村の一体化を推進する」という新しい目標を打ち出した。2003年10月に中共第十六回大会三中全会の「決定」は初めて「人を本とする、持続可能な科学発展観」を提出した。中国の実情を踏まえて、「決定」は持続可能な科学発展観を「五つの統籌（全面的に計画按配すること）」に要約した。

この五つの発展とは、都市農村の発展、地域の発展、経済社会の発展、国内の発展と対外開放、人と自然との調和のとれた発展という五つの発展を指し、これを総合的に考慮することはいわゆる持続可能な科学発展観である。観光農業は都市と農村の発展という要望に基づき生まれた新しい産業形態ではあるが、新しい科学発展観によって観光農業に「人と自然との調和のとれた発展」という新しい要素がつけ加えられた。このように観光農業の発展は、都市と農村の差別を縮小することができる。

第二に、観光農業の発展は、バランスのとれた農村社会の発展を促すための刺激剤である。長期にわたって中国の都市と農村との間に教育、科学、文化などの面において大きな格差が存在している。中共中央の「決定」は農村の発展を支援し、牽引する都市の役割を重要視し、都市と農村の一体化を実現することを新農村建設の目的とする。観光農業は農業の景観、農作業の体験を組み合わせ、都市と農村との交流を促すことができる。

観光農業は農民が市場を理解する「窓口」であり、都市の文明を農村地域に伝え、都市と農村とを融合するためのかけ橋でもある。観光農業を通じて、都市の新しい情報、新しい理念が農村地域に入り、農民たちの素質を高め、農村地域の伝統的な文化に対して大きな影響を及ぼすことができる。他方、農民たちは旅行者を通じて市場の情報をキャッチし、農業生産を市場の需要と結びつけ、市場のために農村物を提供することもできる。

観光農業を発展させるために地域政府は道路の建設をはじめ、インフラ建設とホテル建設に投資し、観光事業の発展に力を入れることになる。このことは農村社会の発展をもたらすだけでなく、農村の環境保護に対する農民の意識を変えることができる。

北京延慶岔道村を例にみれば、村は観光農業を発展するために、全ての照明電線、通信ケーブル、上下水などをいずれも地下に埋め、よって古い山村の環境を大きく改善した。その結果、2006年10月1日のゴールデンウィークだけでも、岔道村は9,925人の旅行者を迎え、観光収入が33.4万元に達した<sup>(26)</sup>。

## (2) 経済的機能

観光農業は農民の農業収入と観光収入を提供するという二重の経済的機能をもつ。ここでは、



観光農業による所得収入を農業収入の付加価値とみなし、農業収入は観光収入の一部をなしている。観光農業が発展することによって、農業の経営範囲が絶えず拡大し、農村の経済力を強め、農村の雇用創出と農民の所得収入の向上に役立つものである。

農民所得収入の増加は「三農問題」を解決するための鍵であり、農業生産の発展、農村経済の繁栄、農民の利益保護に関わる重要な問題である。したがって、観光農業の発展は農業生産の付加価値を増やし、農民の所得収入を増やすことによって、中国の農村が貧困からの脱却に大きく寄与する。観光農業が持つ経済的な機能を以下の点からみることができる。

第一に、観光農業は従来の農産物流通体系を改め、農産物を直接旅行者に届くことによって、農民の所得収入を増やすことができるということである。中国伝統的な農業管理体制の下では、農産物がいくつかの流通ルートを通して消費者の手に届くことになる。しかし、流通ルートが増えるたびに商品の価格が騰がるという問題がある。農産物が流通する過程において、農民と消費者はいずれも農産物の流通から実利を手にすることができない。また農村からの直販ができないことは、農村の経済発展を遅らせる要因でもある。

観光農業の発展を通じて、農民は直接旅行者を迎え、農産物を旅行者に届けることができる。旅行者のニーズを満たすだけでなく、農民の所得収入を増やし、農産物市場の発展をもたらしている。このように観光農業は、農産品の販売を促すと同時に、農業の体験に対する旅行者の希望を満たしている。2005年に、北京市の農業観光園が512ヶ所、民俗旅遊戸（日本の民宿に近い）が8,691世帯を数え、旅行者数がのべ770万人に達した。これによる農業観光の収入額が4.1億元（1元≒16円、約65.6億円）にのぼった<sup>(27)</sup>（新聞網、2006年）。2006年に北京市近郊農民の1人あたり純収入が2,860元に達した<sup>(28)</sup>。

第二に、観光農業は農業の産業構造を改善し、農業のサービス化を促すことができることである。伝統的な農業は、種植業、養殖業などの農業部門を中心としているので、農民の所得収入もしたがって農業生産に頼らざるをえない。これに対して、近代的農業には①生産前の分野（化学肥料の購入、水利建設など）、②生産過程の分野（種植業、林業、牧畜業、水産業など）と③生産後の分野（農産物の加工、貯蔵、輸送、販売、輸出入など）に分かれる。観光農業は特に生産後の分野の発展に大きく寄与している。

中国の経済発展と産業構造の変化に伴い、GDP（国内総生産）に占める第一次産業の比率がすでに1978年の28.2%から2007年の11.3%に低下した<sup>(29)</sup>。観光産業の発展は農業と観光業、生産と消費の有機的な結合を促し、農業の商業、サービス業、交通運輸業、加工業と建設業などの発展を促している。

第三に、観光農業は農村地域の雇用創出に寄与し、農村地域に見られる過剰労働力問題の解決に役立っていることである。

中国の産業構造をみれば、GDPに占める第一次産業の比率が確実に減少してきているが、しかし、中国の雇用構造の変化は産業構造の変化ほど大きくない。就業者総数に占める第一次産業の比率が1978年の70.5%から2007年の40.8%に低下したものの、人口が多いため、第一産業の就業者数が1978年2億8,318万人から2007年の3億1,444万人へと逆に増加している<sup>(30)</sup>。3億人もの農村労働力の存在は中国農村の発展を妨げる最も大きな問題であり、観光農業の発展はこの問題の解決に役立つものである。ちなみに2008年に中国の都市人口は6.1億人であり、総人口の45.7%を占めているに過ぎない。中国の農村人口は7.2億人で、都市人口の数をはるかに上回っている<sup>(31)</sup>。

#### 4. 観光農業の分類

観光農業が食糧、野菜、果物、肉、魚などの農産物、水産物を生産することから第一次産業に属している。もし、食糧、野菜などの生産活動を観光のために開発、利用をすれば、観光農業はサービスの要素をもつ第三次産業にもなる。どのように分類するかが重要である。ここでは、①観光農業の構造別分類、②観光農業の機能別分類、に分けて観光農業を分類する。

##### (1) 観光農業の構造分類

表1に示されるように、農業を産業構造別にみると、観光農業が①観光種植業、②観光林業、③観光牧畜業、④観光漁業、⑤観光副業、⑥観光生態農業に細分類することができる。以下では、観光農業の細分類をみてみよう。

##### 観光種植業

観光種植業は観光の機能をもつ種植業をいう。つまり、農業技術により開発された、比較的高い観光の価値を生産する農作物の園地、または近代的な農業栽培の手段を利用し、旅行者に農業の最新成果を展示する場所である。例えば、国内外から導入された上質な野菜、グリーン食品、多収穫果物、観賞用草花、農業観光パーク、農産物直販、試食センターなどは観光種植業に含まれる。

##### 観光林業

観光林業は観光の機能をもつ人工造林、原生林、グリーン造型パーク等をいう。例えば、人工で開発された人工造林または自然森林地域は多くの観光機能と高い観光の価値をもち、旅行者が観光、野営、探検、避暑、科学研究、森林浴等の余暇活動を行うために空間、場所を提供することができる。

##### 観光牧畜業

観光牧畜業は観光の機能をもつ、牧場、養殖場、森林動物園などを指す。

表1 観光農業の構造分類（第一産業による分類）

一級類型	二級類型（経営別類型）	三級類型（機能別類型）
観賞草花園	優質野菜園，グリーン食品パーク，多収穫 水果園（西瓜園など），観賞花卉園（蘭園， 茶花園など），原生林	野菜試食センター，果物狩り園，果物観賞 園，農業観光園，專業草花公園，百葉園， 無農薬栽培観光園，農業科技园世界
観光林業	人工増林，グリーン造型公園	森林野営地，観賞林区，森林避暑営地，森 林浴，林区科学考察区
観光牧畜業	酪農場，馬牧場，蛇パーク，駱駝牧場，兎 パークなど	競馬場，観光牧場，馬博物館，観光酪農場， 競牛場，牛乳製品試食センター
観光漁業	漁場，淡・海水養殖場	垂釣場，水産試食センター，漁船操縦セン ター，水産観賞館
観光副業	竹製品の製造，とうもろこしの葉っぱ工芸 品，椰子の工芸品，草工芸品工場	工芸品製造観賞センター，自編自賞センター， 工芸品ショッピングセンターなど
観光生態農業	魚の養殖，果物園	生態農業観賞地，生態農業休養地，生態農 業研究場

出所：郭煥威，劉軍萍「観光農業—農遊合一的新型産業」『中国市場』1999年07期より作成。

### 観光漁業

観光漁業は観光の機能をもつ，観光漁業をいう。旅行者はここで魚を釣ったり，船をこいだりして漁民との交流を行い，湖，ダムなどで余暇活動を行う。

### 観光副業

観光副業は旅行者が地方の特色をもつ工芸品を購入し，またその製造過程などを体験することを指す。例えば，竹，わら，とうもろこしの葉っぱを利用して，各種工芸品をつくり体験することができる。

観光農業の機能に基づき，観光農業は表2のように，①観賞型観光農業，②試食型観光農業，③購物型観光農業，④農業体験型観光農業，⑤娯楽型観光農業，⑥療養型観光農業，⑦滞在型観光農業に分類することができる。

## 第三節 北京市の観光農業

### 1. 北京市観光農業現状

以上，われわれは観光農業の特徴及びその分類を検討した。以下では北京市観光農業の現状を踏まえた上で，北京市昌平県をケーススタディとして分析したい。

#### (1) 北京市の観光農業の成長原因

近年，北京市の観光農業が急成長をみせている。その背景には北京市民の所得向上と消費構造

表2 観光農業の機能別分類（第三産業分類）

一級類型	二級類型（機能別類型）
観賞型観光農業	野菜観賞園，瓜・果物観賞園，観賞林区，珍希（珍しい）水産物観賞館，工芸品製作観賞センター，生態農業観賞地
試食型観光農業	野菜試食センター，瓜果試食園，山珍品試食センター，牛乳製品試食センター，水産試食センター
購物型観光農業	新鮮農産品ショッピングセンター，山珍野果ショッピングセンター，牧産品販売センター，水産品ショッピングセンター，工芸品ショッピングセンター
務農型（農作物体験） 観光農業	果物狩園，酪農場，垂釣場，漁船操縦センター，製作センター，生態農業研究場
遊楽型観光農業	森林野営地，競馬場，競牛場，闘鶏場
療養型観光農業	森林浴療場，海浜浴療場
度暇（余暇）型 観光農業	森林避暑営地，生態農業休養地

注：郭煥威，劉軍萍「観光農業—農遊合一的新型産業」『中国市場』1999年07期より作成。

の変化がある。

表3に示されるように，北京市民の1人あたり可処分所得が2000年の10,349.7元から2007年の21,988.7元へ増加し，2000年と比べて2007年は2.1倍も増加した。他の地域との比較では，2007年に北京市民の1人あたり可処分所得が上海（23,622.7元）に次いで全国第2位を占め，最も低い甘肅省（10,012.3元）の2.2倍に相当する。つまり，甘肅省の1人あたり可処分所得は北京市2000年のレベルに留まっている。市民所得の増加は観光農業の急成長を支えている。

表4は都市住民世帯1人あたり平均年間消費支出の推移を表わしている。表4から都市住民の消費構造の変化を確認することができる。まず，第一に食品の支出額が2001年の2,028元から2007年の3,628元に増加したものの，消費性支出に占める食品支出の比率が2001年の38.2%から2007年の36.23%へ減少したことである。つまり，人々の生活水準の向上に伴い，生活支出を示す市民のエンゲル係数が確実に低下しているといえよう。

第二に食品の支出が持続的に減少を続けているのに対して「交通と通信」，「娯楽・教育・文化」の支出は急速に増加している。観光ツアーにかかる交通費が2001年の493.9元から2007年の759.1元に増加し，増加倍率が1.5倍である。観光ツアーに関するデータがないが，それを「娯楽文化サービス」支出から推測することができる。都市市民の「娯楽文化サービス」支出額が2001年の96.8元から2007年の347.6元に急増し，増加倍率は3.6倍で「交通と通信」支出の増加倍率を上回っている。

このように市民の所得水準の向上に伴い，人々の消費構造が変化し，これまでにぜいたくだと思われる観光（娯楽文化）に消費の重点を移すようになった。他方，市民の観光需要が変わり，

表3 地域別市民世帯1人あたり可処分所得

(単位:元)

地域	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
全国合計	6280.0	6859.6	7702.8	8472.2	9421.6	10493.0	11759.5	13785.8
北京	10349.7	11577.8	12463.9	13882.6	15637.8	17653.0	19977.5	21988.7
天津	8140.5	8958.7	9337.6	10312.9	11467.2	12638.6	14283.1	16357.4
河北	5661.2	5984.8	6679.7	7239.1	7951.3	9107.1	10304.6	11690.5
内 蒙 古	5129.1	5535.9	6051.0	7012.9	8123.0	9136.8	10358.0	12377.8
遼 寧	5357.8	5797.0	6524.5	7240.6	8007.6	9107.6	10369.6	12300.4
吉 林	4810.0	5340.5	6260.2	7005.2	7840.6	8690.6	9775.1	11285.5
黒 竜 江	4912.9	5425.9	6100.6	6678.9	7470.7	8272.5	9182.3	10245.3
上 海	11718.0	12883.5	13249.8	14867.5	16682.8	18645.0	20667.9	23622.7
江 蘇	6800.2	7375.1	8177.6	9262.5	10481.9	12318.6	14084.3	16378.0
浙 江	9279.2	10464.7	11715.6	13179.5	14546.4	16293.8	18265.1	20573.8
福 建	7432.3	8313.1	9189.4	9999.5	11175.4	12321.3	13753.3	15505.4
山 東	6490.0	7101.1	7614.4	8399.9	9437.8	10744.8	12192.2	14264.7
湖 南	6218.7	6780.6	6958.6	7674.2	8617.5	9524.0	10504.7	12293.5
広 東	9761.6	10415.2	11137.2	12380.4	13627.7	14770.0	16015.6	17699.3
四 川	5894.3	6360.5	6610.8	7041.9	7709.9	8386.0	9350.1	11098.3
貴 州	5122.2	5451.9	5944.1	6569.2	7322.1	8151.1	9116.6	10678.4
雲 南	6324.6	6797.7	7240.6	7643.6	8870.9	9265.9	10069.9	11496.1
チベット	7426.3	7869.2	8079.1	8765.5	9106.1	9431.2	8941.1	11130.9
甘 肅	4916.3	5382.9	6151.4	6657.2	7376.7	8086.8	8920.6	10012.3
青 海	5170.0	5853.7	6170.5	6745.3	7319.7	8057.9	9000.4	10276.1
寧 夏	4912.4	5544.2	6067.4	6530.5	7217.9	8093.6	9177.3	10859.3
新 疆	5644.9	6395.0	6899.6	7173.5	7503.4	7990.2	8871.3	10313.4

注:当年価格により計算。

出所:国家統計局「中国統計2008」により作成。

従来のようにいくつかの名勝古跡を走馬灯のようにまわる観賞型観光から、「心の豊かさ」を求める観賞型観光に変わっている。特に北京市民の場合は日頃、忙しい仕事に追われているうえ、都市市街地域、都市中心部の生活環境がどんどん悪化している。青い空、きれいな空気さらに豊かな自然と美しい客観を求めて農山漁村を訪れる都市部の旅行者が多くなっている。

## (2) 北京市観光農業の現状

観光農業に関する統計が2003年以後公布されていないため、ここでは2003年までのデータを分析する。なお、表5の「接待者数」を旅行者数に置き換えて見ることができる。

表4 都市住民世帯1人あたり平均年間消費支出の推移

項目	単位	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年	2007年
消費性支出	元	5309.0	6029.9	6510.9	7182.1	7942.9	8696.6	9997.5
食品	元	2028.0	2271.8	2416.9	2709.6	2914.4	3111.9	3628.0
衣服	元	533.7	590.9	637.7	686.8	800.5	901.8	1042.0
家庭設備用品とサービス	元	376.2	388.7	410.3	407.4	446.5	498.5	601.8
医療保険	元	343.3	430.1	476.0	528.2	600.9	620.5	699.1
交通と通信	元	493.9	626.0	721.1	843.6	996.7	1147.1	1357.4
交通	元	212.5	267.2	297.1	389.1	499.6	606.9	759.1
通信	元	281.5	358.8	424.0	454.6	497.1	540.2	598.3
娯楽・教育・文化	元	736.6	902.3	934.4	1032.8	1097.5	1203.0	1329.2
文化娯楽用品	元	211.6	245.2	264.5	256.7	280.2	310.3	343.2
文化娯楽サービス	元	96.8	161.9	155.9	217.2	245.9	280.8	347.6
教育	元	428.3	495.2	514.0	559.0	571.3	612.0	638.4
居住	元	610.7	624.4	699.4	733.5	808.7	904.2	982.3
住房	元	249.5	242.6	256.5	247.9	249.3	285.1	302.2
水電，ガスと他	元	327.1	357.0	412.7	451.5	516.3	569.4	620.8
その他商品とサービス	元	186.6	195.8	215.1	240.2	277.8	309.5	357.7

注：当年価格により計算。

出所：国家統計局「中国統計2008」により作成。

表5から分かるように、北京市観光農業の観光者数が2000年の2,179万人から2003年の3,982.7万人に急増した。わずか3年間で観光者数が1,803.7万人次増となった。増加速度が北京市受け入れ観光者数の増加速度をはるかに上回っている。しかも外国と中国国内の観光者は通常北京市内または北京市近郊の名勝古蹟を訪れるが、農業観光者の大半は北京市民である。北京市民を接待することによって観光農業の総収入が年々増加し、2000年の12億元から2003年の27億元に増え、増加倍率が2.3倍となり、観光者数の増加倍率（1.8倍）を上回っている。

表5 北京市観光農業の接待者数と収入総額の推移

項目	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
接待者数(万人次)	2179.0	2856.0	3618.1	3982.7	4870.0	5956.0	7284.0
総収入(億元)	12.0	17.2	22.8	27.0	35.4	46.3	60.7

出所：北京市統計局。

表5から北京市観光農業の付加価値が年々増えていることが分かる。北京市の観光農業の収入が2000年の12億元から2007年の60.7億元に増えた。

### (3) 北京市観光農業の発展予測

2003年以後のデータがないが、ここでは2000-2003年のデータを踏まえて、北京市観光農業の中期発展予測を行う。2000-2003年の観光者数の増加率が年平均22.3%である。この増加率が今後3年間変わらないものとする。2003年を基準に予測すれば、北京市観光者数が2000年の2,179万人次から2006年に7,284万人次に増加した(表6)。

表6 北京市観光農業の接待者数の増加推移

項目	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
接待者数(万人次)	2179.0	2856.0	3618.1	3982.7	4870.0	5956.0	7284.0

出所：北京市統計局。

2000-2003年北京市観光農業の総収入額の増加率が年平均31%である。この増加速度と2003年総収入額を基準に計算すれば、以下の総収入額の推移を予測することができる。

以上の分析から、以下の結論を得ることができる。つまり、北京市の経済発展、市民の所得水準の向上及び消費構造の変化により、観光農業が今後大きく発展する可能性がある。特に2008年の北京オリンピックにより、北京市の交通インフラが大きく改善された。北京市の地下鉄の延長距離が300kmを超え、2010年に500kmに延長する予定である。地下鉄と並び、高速道路の建設も急スピードで行われている。交通インフラの改善は観光農業の発展を促す重要な要因となる。

北京市政府は2001年に『北京市観光農業発展総体(全体)規画』を発表し、観光農業を北京市観光産業の重要な部分と位置づけ、観光農業の発展に全力を尽くしている。この企画に基づき、北京市は民俗旅遊村(民俗村、民俗農家)と観光農業示範区(観光農業区域)に関する評価基準を定め、30の市レベル観光農業示範区、70箇所の市レベル民俗村と5,100箇所の市レベル民俗農家を許可した(中国農業信息网, 2006)。

## 第四節 昌平区観光農業の現状と問題点

### 1. 昌平区観光農業の比較優位

昌平区は北京市農業と観光区の代表的な地域である。多くの名勝古跡と自然景観区があり、観光農業発展の比較優位をもっている。

#### (1) 地域、環境の比較優位

昌平区は北京市の西北部に位置し、市街区域から35km離れている。区域の総面積は1,352

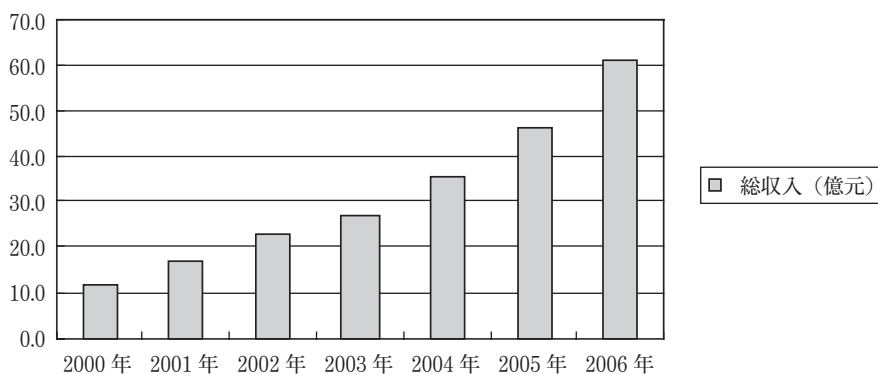


図2 北京市観光農業収入総額の推移

出所：表6と同じ。

表7 北京市観光農業の収入総額の推移

項目	2000年	2001年	2002年	2003年	2004年	2005年	2006年
総収入(億元)	12.0	17.2	22.8	27.0	35.4	46.3	60.7

出所：北京市統計局。

km<sup>2</sup>。うち平野は552 km<sup>2</sup>で全体の40.8%を占め、山間区域及び丘陵地帯は800 km<sup>2</sup>で全体の59.2%を占める。2004年末現在、区の常住人口は73.3万人。戸籍人口は45.7万人である。うち、都市戸籍人口は22.2万人、農業戸籍人口は23.5万人である。

昌平区域内に京包（北京→包頭幹線）鉄道，大秦（大興→秦嶺）鉄道など5本の鉄道があり，京張（北京→張家口）などの高速道路がある。鉄道と高速道路は北京市街区と昌平とを結びつけ市街区との距離を大きく縮小した。村と村の区道も整備され，8本の区域内公交バス，12本の市内と昌平を結ぶ城郷（都市と農村）の長距離バスが開通され，第六環状線昌平の道路が開通された。高速道路，鉄路インフラの整備は観光農業の発展に有利な条件を提供した。

昌平は温榆河平原と軍都山の結合地帯に位置する。北側は燕山山脈に近接し，南は京北平野に隣接する。地形の変化が豊かで，水は豊富であり，空気はきれいである。北京市気象局によれば，昌平区の空気の質は常に1級のレベルを保ち，北京市空気の浄化装置と位置づけ，観光農業発展の比較優位をもっている。

## (2) 観光資源の比較優位

昌平は古い歴史を持っている。昌平区域内には国家指定の文物保護部門は78箇所を数える。うち，国家級保護部門は3箇所，市級保護部門は3箇所，区級保護部門は72箇所。2箇所の世界文化遺産を持つ。明の十三陵と居庸関長城はそれである。2003年12月末現在，区域内に旅行社が175家，観光投資総額が100億元にのぼっている。昌平区の民俗村は50箇所，昌平区行政



村の22.2%を占める。観光事業に従事する農家は1,200世帯を数える。目下、昌平区の観光事業は、①名勝古跡、②自然景観、③娯楽、④療養院、⑤人文景観、⑥知識博覧、⑦民俗、⑧観光農業、の8部門に分かれ、豊かな観光資源に恵まれている。

### (3) 政策の比較優位

昌平区政府は観光業を地域産業の基幹産業と位置づけ、「山間区民俗旅行発展政策」など92項目の政策を打ち出し、観光業発展基金を設立した。

## 2. 昌平区観光農業の現状

昌平区観光農業は種々さまざまな形態やモデルに分かれる。主な観光形式とモデルは以下の通りである。

### (1) 近代的な観光農業モデル

近代的な観光農業モデルは主に政府または開発企業が主体となり、観光インフラを整備し、水、電気、ガス、道路、建施設などの基盤施設を整備し、生態モデル区域または観光農業モデル区域を建設し、観光客を引き付け、観光事業を発展させるモデルを指す。近代的な観光農業は個人投資より政府や企業の投資が多いことにその特徴がみられる。

農業科学技術園は北京市観光農業の中で重要な位置を占めている。今、北京市に各種農業科技園が375箇所を数える。うち、国家級の農業科技示範園区に小湯山現代農業科技園、順義三高、通州宋庄、大興長子宮、房山韓村河、朝陽朝來農芸園などがある（趙旻，2003）<sup>(32)</sup>。小湯山を中心と建設される昌平農業科技園は近代的観光農業モデルであり、北京市政府の投資が大半を占める。

小湯山現代農業科技示範園は1998年に建設された北京市の国家級農業科技園区である。国家科技部、北京市政府などによって、「国家級農業科技園」に認定された。園区の建設計画総面積は111.6 km<sup>2</sup>。中心区域は30 km<sup>2</sup>、入居企業は50社以上、投資総額は30億元を超えている。

中国が出した「高新農業項目（技術集約型農業プロジェクト）」に基づき、同園区は7区1園に分かれる。草花示範区、林木種苗示範区、休閑度假区（休息滞在区域）及び籽種（種）農業示範園がそれである。現在、小湯山農業園は、すでに果物、野菜、漁業、牧畜業をもつ総合的な農業生産拠点、農業技術開発、農業体験、温泉療養、観光などの機能をもつ近代的な都市農業区域に成長した（昌平区政府HP，2006）<sup>(33)</sup>。

小湯山農業園は農業技術を開発、普及、教育する上で大きな役割を果たしている。教育訓練を例に見れば、小湯山特殊野菜基地でこの4年間に1,800人の農民を教育し、北京及び全国からの

見学学習者が6,000人次、観光者が36,300人次に達した。これによる売上高は24.3万元。1999年同農業園は中国農業大学園芸学院から「科(学)研(究)示範基地」に認定され、2000年に全国科(学)協会から「全国科学普及教育基地」に認定された。さらに2003年に「中日友好示範農場」に認定され、日本からの観光客を多く迎えている。

## (2) 体験、参加型観光農業

体験、参加型観光農業は観光農業の代表であり、都市住民が自然での余暇活動、農業体験、農家民宿をベースとした都市と農村との交流を促すことを目的としている。体験、参加型観光農業は旅行者の参加を重点とする。

昌平区は北京市果物の産地であり、長い果物生産の歴史を有する。1996年に全国婦人連合会は6,000人もの青少年を組織し、崔村鎮真順果物園でりんご狩り活動を行った。以降、崔村、十三陵、南邵などの郷鎮は梨、棗狩りなど特色のある観光農業プランを打ち出した。2006年上半期、長陵、十三陵鎮の黄泉寺、徳勝口などの村は野生の酸棗の木に接木し、1,000本の改良棗を植え、流村鎮老峪沟地区は野山の杏を接木し、10,000本の改良杏の木を植え、特色のある果物生産に成功した。同区には観光果物園が183箇所。2007年第1四半期に受け入れた旅行者は81.36万人次、前年同期比、31,184人増加し、増加率62%となった。旅行者がとった果物が512t、前年同期比19%増となった。経営収入額が1,746.5万元、前年同期比3.2倍に達した(北京郷鎮企業信息网, 2007)<sup>(34)</sup>。昌平区の観光果物園の発展がいかに速いかがこれらの数値から伺われる。

昌平区小湯山鎮に陽光の農莊という子供を受け入れる農莊がある。子供たちはここで大自然に触れ、また労働を通じて、野菜を作ったり、動物を飼い、魚を釣ったりすることもできる。子供達は遊びながら知識を覚え、労働体験を通じている人なことを学ぶことができる。ここは農業教育、素質教育と観光を融合する観光農業である。

昌平区興寿鎮に位置する桃峪口ダムは鯉、草魚など10数種類の魚を放養し、旅行者はここで魚釣りを楽しむことができる。2007年末現在、北京市が旅行者のために建設した魚釣りの水面面積は2500ム(15ム=1ヘクタール)に達し、一年中魚釣を楽しめる大型垂釣園は11箇所、魚釣を経営する企業が400社を数える(郭煥成, 2004)<sup>(35)</sup>。

体験、参加型観光農業は、現地の農民に収入を獲得する手段を与えると同時に、都市住民との交流を行う場所を提供した。同時に農民の生活方式を変え、所得収入を増やし、都市と農村の格差を縮小することができる。

## (3) 民俗観光型

民俗観光型観光農業は、自然資源、農業資源と当地特有の民俗文化を利用して果物狩り、おみ

やげ販売、民俗文化の体験、農家の食事などのサービスを提供することによって、農産物の販売、飲食、ツアーなど総合的な経済利益を取得する観光農業を指す。

2005年発「北京郷鎮企業信息网」によれば、昌平区の民俗観光業が1998年からスタートした。「民俗旅游」（民俗観光）はすでに昌平区観光事業の一環として定め、昌平区が山間区の貧困脱却を図るために行われる「富民工程」（農民生活の豊かさを求めるプロジェクト）と位置づけられている。約10年間の努力により、昌平区の「民俗渡假村」（民俗文化を觀賞する滞在型観光村）が50か所の村、8,000のベッドを持つ規模に発展した。農家の食事をし、農家に滞在し、農作業を体験し、農民の友人を作るほかにリンゴ狩り、多収穫農業の見学など種々さまざまな観光ルートとプログラムが設けられている。

2003年に昌平区の「民俗渡假村」が受け入れた観光者数が70.18万人次、前年同期比72.2%増加し、観光収入額が4,129万元（同16.2%増）に達した<sup>(36)</sup>。2007年10月に昌平区は「奧運旅游接待村」（オリンピックツアー接待村）の公布会を開き、認定を受けたオリンピックツアー接待村は正式に運営を始めた。昌平区是北京オリンピックの観光モデル地域と認定され、民俗観光全体のレベルアップをはかり、昌平区の民俗、民風と新農村の変化を外国人観光客にみせようとしている（北京旅游信息网, 2007年<sup>(37)</sup>）。

近代的農業観光モデルと比べて、民俗観光型農業観光モデルは、地の利点を利用し、それぞれ異なる経営主体の経営特色を表わし、観光商品の多様化、個性化をもたらし、それぞれ豊なら消費者のニーズを満たすことができるというメリットをもっているが、しかし、このモデルが農家の自発経営を主とし、統一した企画がないというデメリットがみられる。しかも民俗村を建設する最初の段階において多くの資金が必要であり、政府と企業の援助がなければ、農家はただちに資金難に陥り、規模の経済を実現することができない。そのため経営環境を改善することは難しい。

### 3. 昌平区観光農業の問題点

観光農業がスタートしてからまだ歴史は浅い。近年急成長を遂げたものの、多くの問題が見られる。その問題点を以下のように要約することができる。

#### (1) 強い相似性をもつ観光農業

調査によれば、昌平区の観光農業に強い相似性が見られる。観光果物園と民俗村の開発、設計が似通っており、いずれも「農家の食事を食べる、農家に宿泊し、農業体験をし、農家の楽を味わう」というスローガンを打ち出し、「大自然に戻り、新鮮な空気を吸い、グリーン食品を試食する」ことを共通の目標にしている。しかし、観光果物園と民俗村が提供できるプログラムはリン

ゴ狩りや宿泊施設である。特に昌平十三陵地区の農家が経営する旅館は年に観光客に旅館を提供するだけであり、郷土民情（民俗文化）を体験することはできない。

## (2) 生態環境の破壊

農業資源のうち、特に自然景観などの多くは再生不可能な資源であり、その開発に十分に気を配り、生態環境を保護しなければならない。しかし民俗村や観光施設の建設などは多かれ少なかれ当地の自然景観を破壊し、新しい汚染源をつくり出している。調査によれば、観光果物園や民俗村にゴミと污水处理の問題がある。また旅行者が捨てたゴミは農村の生態環境を破壊している。

## (3) 強い季節性と経営規模の問題

農産物生活の季節性が強いいため、観光農業の発展の季節の影響を強く受けている。良い季節に多くの観光客が訪ねてくるが、オフシーズンには観光客が少なく、農家の所得収入も違っている。昌平区では5-10月は観光シーズンであり、この時の収入は年間収入の大半を占めている。この問題を解決する方法として観光記念品や直販農産物の生産などが必要である。

観光農業プロジェクト全体の規模がまだ小さいのは昌平区観光農業の特徴である。また、観光農業の発展が農民自発的な努力に頼むとことは大きい。農家の資金が少ないため、どうしても、観光商品項目数が少ない、観光地が似通い、特色がないなどの問題をもたらしている。

## (4) 人材の問題

農村経済が都市経済に比べて立ち遅れている。また農村旅行社の管理人材が不足している。

## (5) 浅いブランド意識

羅文が行った観光農業の調査報告書によれば、昌平区の観光農業問題を開発するにあたって、ブランド意識がまた浅いことが判明した。すでに経営をはじめた観光農家は「現在の商品をいかに開発するか」の問題を考慮に入れていない。その数が調査対象者の95%に達した。各観光農業は果物狩り、農家の食事などにとどまり、特色のある開発プロジェクトを考えていない<sup>(38)</sup>。

## 結びに代えて

中国の観光農業はいま急成長をとげる段階におかれている。観光農業開発の歴史がまだ浅いものの、「三農問題」の解決に役立つことから、各地政府は観光農業の発展に力を入れている。勿論、観光農業が発展する過程において、前述の諸問題がみられるが、これらの問題を発展の過程

に解決していかなければならない。

中国は諸外国、特に日本の経験を参考し、例えば、体験民宿の登録制度など観光者を受け入れる農家の組織化、標準化に力を入れる必要があるだろう。

中国における観光農業の発展に今後も注目していきたい。

〈注〉

- (1) 本稿は私たち3人の共同論文である。東京農業大学大学院博士課程張虹が提供した資料及び論文審査の先生に心からお礼を申し上げる。
- (2) Chenery, H. B., Patterns of industrial growth, *American Economic Review*, 50, 1960, pp. 624-625.
- (3) 張燕芳, 李開宇「中国發展観光農業的資源分析及对策」『人文地理』1999年第14期, 61-63頁。
- (4) Inskeep, E., *Tourism planning - An Integrated and Sustainable Development Approach* [M], US: Van Nostrand Reinhold, 1991.
- (5) Lanc B. Bramwell, B. Rural, *Tourism and Sustainable Rural Development Approach* [M], UK: Channel View Publications, 1994.
- (6) 山崎光博, 小山善彦, 大島順子『グリーン, ツーリズム』家の光協会, 1993年, 1-2頁。
- (7) Rechel, A., Owengart, O., Milman, A. Rural, *Tourism in Lsrael: Service Quality and Orientation* [J], *Tourism Management*, 2000, 21(5).
- (8) 盧雲亭, 劉軍萍他主編『観光農業』北京出版社, 1995年, 24-25頁。
- (9) 注(5)と同じ。
- (10) 舒伯陽「中国観光農業旅遊の現状分析与前景展望」『旅遊學刊』1997年第五期, 41-43頁。
- (11) 凌躍初『再論上海發展都市農業的思路和政策——都市型現代農業理論与实践』中国農業出版社, 2003年, 141-155頁。
- (12) 劉華楠「發展中国旅遊農業的模式及对策」『經濟問題』1998年增刊, 56-58頁。
- (13) 潘小珍「閩宇發展観光農業的探討」『新疆社会經濟』1999年第四期, 68-71頁。
- (14) 閻峰「観光農業旅遊——旅遊花園中的一枝新秀」『北京第二外國語學院學報』1999年第二期, 91-95頁。
- (15) 劉軍萍「観光農業: 讓農業產業走向旅遊產業」『国土經濟』2001年第1期, 17-18頁。
- (16) 劉小龍「中国農業發展的新天地——生態旅遊產業」『生態經濟』2001年第1期, 17-18頁。
- (17) 郭煥成, 李開宇『休閒農業与鄉村旅遊發展論文集』2004年, 56-62頁。
- (18) 張燕芳, 李開宇「中国發展観光農業的資源分析及对策」『人文地理』1999年第1期, 61-63頁。
- (19) 張青年, 秦建新「観光農業開發企画研究」『大自然探策』1999年, 81-84頁。
- (20) 張淑玲「河南観光農業的發展問題研究」『河南師範大學學報(社会科学版)』2002年, 29(2), 39-41頁。
- (21) 範子文「北京都市農業發展的現状, 前景与对策」『中国農業資源与区劃』1998年第二期, 47-50頁。
- (22) 楊楊「我国城鄉差距的現状与變動趨勢」『中国農業年鑑・2005年』。
- (23) 井上和衛『地域經營型グリーン・ツーリズム』都市文化社, 1999年。
- (24) 21ふるさと京都塾『人と地域をいかすグリーンツーリズム』学芸出版社, 1998年。
- (25) 宮崎猛氏『グリーンツーリズムのおすすめ』農林統計協会, 1997年。
- (26) 『北京新聞』2006年。
- (27) 新聞網, 2006年。
- (28) 『中国人口信息网, 2006年』。

- (29) 中国統計局『中国統計・2008年』中国統計出版社，2009年，21頁。
- (30) 中国統計局『中国統計・2008年』中国統計出版社，2009年，44頁。
- (31) 蔡方主編『中国人口与労働問題報告・2010年』社会科学文献出版社，2010年，26頁。
- (32) 趙旻「北京市農業観光休閒産業区域布局規劃」朱明德主編『都市型現代農業理論与实践』，中国農業出版社，2003年，398-417頁。
- (33) 昌平区政府，<http://www.nyy.bjchp.gov.cn/>。
- (34) 北京鄉鎮企業信息網，<http://www.suburbs510.com/>。2010年。
- (35) 注(17)と同じ。
- (36) 中国統計局『北京市2006年国民經濟与社会發展統計公報』2007年。
- (37) 北京旅游信息网，<http://www.bjta.gov.cn/>。2010年。
- (38) 羅文『北京市昌平区觀光農業發展对策研究——以十三陵為案例』中国農業科学院研究生院，2007年，28-38頁。

## Current Status and Problems of Beijing's Tourism Agriculture

Jixun Zhang, Zhanyou Xia and Hong Zhang

### **Abstract**

This paper analyzes the basis and reason of the projected further expansion of Beijing's tourism agriculture, based on its current rapid development; as well as its impact on Beijing's economy and suburban areas. The paper also discusses the overall effect of tourism agriculture on the issues and problems facing China's rural areas, its peasant population, and its agriculture.

**Keywords:** The issues of farmer, agriculture, and rural areas, Tourism agriculture, Urbanization, Construction of rural areas